



管理者就任時の思い・歩み

前雲南市病院事業管理者 松 井 讓

新本館棟完成記念誌の発刊、誠にありがとうございます。また、編集委員の皆様のご努力に敬意を表します。

小生、昭和62年に岡山大学整形外科教室からの派遣で当院に赴任し、整形外科医長として、また後には副院長として平成15年ごろまでは診療上の多忙さにはありましたが医師不足による病院の危機が来るとは全く予想もせず、ただ、日々の診療業務に邁進しておれば良い環境で仕事をさせて頂いていました。

しかし、ご存じのように平成16年の新医師臨床研修制度を機に急激に医師不足に陥り、数年間で35名の医師が17名に半減するという異常事態に陥りました。当然経営状態は悪化し、その状況は新聞にも取り上げられ、職員が浮足立ち、病院全体の雰囲気が暗澹とした状態に陥ってしまいました。

そういった状況の中、1市2町で構成されていた経営母体が雲南市単独の運営形態に変更になること、すなわち公立雲南総合病院から雲南市立病院へ名称が変更になること、病院を公営企業法の一部適用から全部適用の自治体病院とし、経営責任を明確にするとの議決がされました。そして、平成21年の春だったと思いますが、雲南市長から大谷順医師（現病院事業管理者）と協力して病院の健全化に努力し、平成23年度の市立病院への移行を順当に行うこと、またその後の病院運営を軌道に乗せるよう要望がありました。

当時、同じような医師不足に陥った自治体病院は全国には多数あり、それに関連する書籍もたくさん出版されていました。あらゆる書籍を読んでは、ため息をつき苦渋した記憶があります。ただ、共通の打開策はプライマリケア、各種連携、病院職員の思考ベクトルの一致ということと受けとめました。また、そういった状況の時に「がんばれ雲南病院市民の会」などの住民組織の方々の応援団が親身に病院のことを心配していただき、ご助言、ご支援を受け賜わり、また、小生の病院運営に対する考えを理解していただいたことは大きな勇気につながりました。つまり、自治体病院は住民の方々に応える医療施策を遂行する責務がありますが、公共性の確保が最も重要であり、経済性の発揮のみに議論の軸をおくべきでなく、バランス感覚の重要性を訴え、早急な経営改善は厳しいかもしれないが長期的視点での病院運営への理解を求めました。

すなわち、病院の機能を4大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療）を中心として診療を進めていくこと、介護、リハビリを含めた包括医療の推進と強化、病診連携、病々連携の強化、さらには女性医師の招聘に向けての環境整備を掲げました。そして、新病棟を早期に建築し、10年後少なくとも25名程度の常勤医師体制を目指し地域医療に貢献できる病院作りを宣言しました。

この目標の達成に向けて大谷順現病院事業管理者がリーダーとなり内科医師不足の中、外科系医師による総合診療科を県下で真っ先に立ち上げ、救急、災害、僻地医療に多大な貢献をして頂きました。その後、ご存知のように県内有数の総合診療科、地域ケア科に発展させてきたことに心から敬意を表したいと思います。各種連携に関しては病院として病々連携、病診連携に関する努力は当然ですが、雲南地域医療を考える会主催の地域医療シンポジウムでの意見交換も大変参考になりました。病院内部だけでなく本当に多くの方から様々な示唆を頂いたことに紙面を借りて改めて感謝致します。

さて、小生の最後の任務と考えていた新病棟建設に関して記述します。

県立中央病院、町立奥出雲病院、松江市立病院、出雲市立総合医療センターなど周囲の病院がすべて新築される中、建築後50年近くになる古い建物で、カーテンでの簡単な仕切りの6人部屋での診療は患者さんに本当に気の毒でありませんでした。病院が古いことで「まるで野戦病院」とか「医療器具も満足に無いのではないか？」との陰口も耳にしていました。経営状況が悪い中での病院建設に関しては大変厳しいご意見が多々ありましたが、市長の御英

管理者就任時の思い・歩み

断で建設が決定したことを本当に有難く思いました。建設には各種困難もありましたがこの度グランドオープンを迎えることが出来たのは秦和夫前病院事業副管理者をはじめ多くの職員はもとより、建設に携わっていただいた多くの方々の協力の御陰と感謝の念で一杯です。

この10年で病院経営は改善し、医師数も25名程度とほぼ目標数に到達しました。地域枠推薦の医師たちも活躍してくれ始めました。現在のところ病院は大変活気づいてきたことを大変嬉しく思っています。しかし、日本の医療政策はくるくる変わります。振り返ってみましてもたびたび、想像できなかった、また予想以上のことが起きています。病院に対するニーズも変化すると思います。

最後になりますが、時代の流れのなかで全職員が一致団結し、フレキシブルな思考で努力されることを希望すると共に、雲南市立病院の今後の益々の発展と雲南圏域の地域医療の向上を心から願っています。